

大星極秘傳書

和装本

ケ 5

44

157





卿 方 早 暮 校 科 侍 書
 方 早 暮 中 日 輪 轉 也
 一 一 一 一 一 一 一 一
 后 官 三 韓 臣 臣 之 時 物
 為 之 程 以 結 利 之 事 也
 小 世 方 早 暮 清 之 事 有 之
 下 一 一 一 一 一 一 一 一
 帝 石 に 一 一 一 一 一 一 一 一

大田馬場



以名と云傳有當時武
 藏之奥義小古也と
 卜事有之流儀とらて
 以夫女子傳の事と
 大星小向と對つて天
 理不肖く故除之對
 之精利令也一編
 江傳の伝の事とらて

元事の事とらて當流
 傳の古也と傳の事とらて
 傳の秘傳有之也と軍
 紀と中の人日名時名時天
 理を以陰陽相と相對
 之理神の考中相と
 之方名考相對之方
 惡一是也と相

遠き事ありて其の向背
之は然れども疑はざる
又其の如くありて其の
有之天理の中斗はる
惟る子に在る處に
知りて其の如くあり
年明白なる向ふこと

けりて其の如くありて
事平眼の如く明白なる
之を理をたるとする者
あかきりて密なる所
有方なりて其の如く
如く然る事ありて其
く南の向ふこと
思ふことありて其の如く

向し、暗く、
能く、
有る、
小、
痛、
小、

其、大、
如、此、
小、
大、
有、

然る儀ありては是れ
向ふべく有る徳也
此意味を以ておの
忽小川念國家之仕
主を自分之心持為持
食は物等しるは
ち早之曲はしるは
まらやに有る則

自然と云はれは以て大
早之妙徳を以て
安んずる有る一
武運は増進し
を故事し
疑もあらず
天地一なる
ち早之歌は

感通 日月之清
水之空清 乃如く者
之 毎なる事 其も
理自然 縁なき無
疑 亦常 後 乃
其 爲 損 益 之 知
友 友 之 向 之 縁
其 乃 分 乃 乃 乃 乃

に 如く 悟 之 象
乃

右之 延 師 傳 信 乃 乃

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located on the right page of the notebook. The text is written vertically and appears to be a name or a set of initials.

